

SIP 第3期 円滑な推進に向けて（依頼事項）

令和5年4月21日

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局

SIP 第3期の円滑な推進に向け、以下について取り組んで下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。

1. 研究推進体制の整備

SIP 第3期において、PDはミッションに基づき、研究開発のみならず、事業、制度、社会的受容性、人材など社会変革を促進するため、研究開発計画をとりまとめ、研究推進法人の機能を生かし、研究開発テーマを推進するとともに、他のSIP課題との連携、関係省庁・産業界の取組との連携、BRIDGEなど他の施策の活用など社会実装に向けた戦略を総合的、機動的に推進するものと位置づけられております。

そのため、PDは関係省庁や研究推進法人と連携しながら、PDを中心とするマネジメントチームを形成することが重要です。

PDへの要件として示させていただいているように、社会実装に向けた産業界との連携、協調領域拡大に向けた業界や分野全体としての連携体制の構築、ジェンダーバランスも含む多様な視点を踏まえ、サブPD、PD補佐、PMなどの設置を検討ください。

また、推進委員会について、研究開発や社会実装の推進に向けて、施策や制度を所管する省庁、関連する業界や有識者と連携・協力を進める上で重要な位置付けであり、設置や運営要領のひな形を参考として、早期の設置を検討ください。

また、研究推進法人との間で緊密な連携と適切な役割分担の下で課題を運営できるようあらかじめ合意書の作成を行ってください。

その上で、各課題の研究推進体制の整備状況について把握するため、フォーマットに従って内閣府課題担当を通じてご提出いただけますよう、お願い致します。（第1回：5月12日ご提出、第2回以降：毎月末ご提出）

（資料）

参考資料1 SIP第3期マネジメント体制

参考資料2 SIP第3期の選定に当たっての各PDへの要件（第102回GB資料）

参考資料3 各課題の研究推進体制（フォーマット）

参考資料 4 SIP 第 3 期推進委員会の設置について（ひな形）

参考資料 5 SIP 第 3 期推進委員会運営要領（ひな形）

参考資料 6 【机上配布】SIP 第 3 期に係る諸謝金・委員等旅費について

2. 研究開発テーマの公募

すでに公募を開始されている課題もありますが、公募要領ひな形を参考としていただき、研究推進法人と連携しながら、研究開発テーマの公募を進めてください。

ひな形における応募に関する諸条件等で示した内容、特に利益相反マネジメント規則の遵守、データマネジメントプランの策定（メタデータの付与含む）・研究データ基盤システム（NII RDC）の活用検討、利用者目線での情報発信、研究インテグリティの確保、関連法令の把握・遵守は、研究開発責任者だけでなく課題全体として取り組んで頂きますようよろしくお願いいたします。

また、SIP 第 3 期については、競争的研究費に位置づけることになりましたので、競争的研究費の間接経費の執行に係る共通指針を踏まえていただくようお願いいたします。具体的には、大学・研究推進法人等の間接経費は直接経費の 30%に当たる額となります。大学・研究開発法人等以外は引き続き従前の運用指針のとおり直接経費の 10～15%が基本となります。なお、すでに公募を行っているものや公募に向けた準備を進めているもの、さらに次年度以降も同様の実施体制を継続するものは経過措置として従前の運用指針に依ることが可能です。

その上で、現在の公募等の進捗状況について把握するため、フォーマットに従って内閣府課題担当を通じてご提出いただけますよう、お願い致します。（第 1 回：5 月 12 日ご提出、第 2 回以降：毎月末ご提出）

なお、各研究開発テーマについて、公募等の結果を受けて、具体的な実施体制、工程表、予算配分等を具体化していただき、夏ごろに研究開発テーマの具体化の状況について、プログラム統括チームによるヒアリング、必要に応じてガバニングボードでの報告を実施する予定です。

（資料）

参考資料 7 SIP 第 3 期 研究開発課題 公募要領（ひな形）

参考資料 8 各課題における公募等の進捗状況（フォーマット）

参考資料 9 競争的研究費の間接経費の執行に係る共通指針

参考資料 1 0 SIP 第 3 期が競争的研究費になる事に伴う対応について

参考資料 1 1 法令遵守の徹底

参考資料 1 2 第 6 期 科学技術・イノベーション基本計画（抜粋）

参考資料 1 3 公的資金による研究データの管理・利活用について

3. 追加配分

初年度では、計画段階で想定された予算額と執行段階での予算額が異なることが想定されることから、一部の予算について各課題の執行状況に応じて追加配分を行うこととしていたところですが、現時点ではまだ公募等が行われておらず、予算執行額の見込みが明らかでない課題も多いことから、さらに公募等が進んだ段階（9月の予算移し替えに向けて夏ごろに執行状況を確認することを想定）で追加配分を行うことを基本とします。

そのため、今般、ガバニングボードの事前評価に対する対応状況、公募等の執行準備など執行状況を調査することとしますが、現時点で特に追加すべき研究開発テーマがある場合に限って提案を受け付ける予定です。

また、追加配分の対象は各課題のミッション実現に向けて不可欠な研究開発テーマですが、SIP全体として効果的な実施に向けて追加配分が必要なものを優先することと致します。具体的には、データ連携、課題間連携等の観点に基づく研究推進体制の推進も優先条件となります。

（資料）

参考資料 1 4 第 96 回ガバニングボード資料 次期 SIP 課題候補に係る事前評価

4. 利益相反マネジメント

令和 4 年度の FS と同様、PD 等が所属する組織かどうかに関わらず、ベストな体制を構築し、課題を推進するため、利益相反による疑念に対する説明責任が果たすことができるよう、第三者委員会およびアドバイザーなど利益相反マネジメントの仕組みを構築しています。SIP 第 3 期においても、利益相反に係る懸念がある場合には、積極的にご相談下さいますようお願い致します。

また、利益相反マネジメントの考え方について理解を深めていただくため、4 月 28 日にアドバイザーである鈴木弁護士によるオンラインセミナーを開催するとともに、利益相反マネジメント規則解説書をアップデートします（後日配布）ので、宜しくお願い致します。

（令和 4 年度における具体的な相談事例）

- ・タスクフォースの議決や FS の委託先において、利益相反上 PD が注意すべき点。
- ・PD と関連する組織が研究委託先の候補となる可能性がある場合の対応について。

(資料)

参考資料 1 5 SIP 第 3 期第 3 者委員会とアドバイザーの設置について

5. 課題間連携

SIP 第 3 期は、個々の課題を独立して推進するものではなく、Society 5.0 の実現に向けて課題間で相互に連携しながら取り組むことにしておりますので、今回の PD 会議や PD 間での意見交換などを通じて他の課題との情報交換や具体的な連携の検討をお願い致します。

プログラム統括チームは課題間連携を促進するものとしており、データ連携などの専門家に入っておりますので、課題間連携にあたっての懸念などありましたら、事務局を通じてご相談ください。

データ連携については、デジタル庁のデータ戦略において分野間データ連携を目指すプラットフォームとして位置付けられている、DATA-EX（一般社団法人データ社会推進協議会（DSA）提供）をデータ基盤として活用することを原則とする方針です。

※ 参考 プラットフォームにおけるデータ取り扱いルールの実装ガイド Ver1.0

https://www.digital.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/63d84bdb-0a7d-479b-8cce-565ed146f03b/20220304_policies_data_strategy_outline_01.pdf

また、PD 会議の下に「データ連携に係るワーキンググループ」を設置します。各課題から 1 名、WG への参加をお願い致します。PD のご参加も歓迎しますが、SPD レベルを想定しております。

(資料)

参考資料 1 6 PD 会議と各 WG の概要

6. 社会実装

公募・契約により研究開発テーマの詳細が決まり次第、実施内容に応じて戦略及び計画の具体化を進めてください。

戦略及び計画を改定する際には推進委員会でご議論いただくとともに、事務局を通じてガバニングボードにご報告ください。

ガバニングボードでの事前評価において、戦略及び計画の工程ごとの目標とゴールイメージ（社会実装の姿）が十分具体化されていないとの指摘がある課題もありました。XRL を活用しつつ、研究開発の進捗段階ごとの指標（SIP としての達成目標だけでなく、関係省

庁や産業界の取組についての指標を含む)を明確にさせていただきたくよろしくお願いいたします。

社会実装に向けては、総合知の観点で、技術開発にとどまらず、事業、制度、社会的受容性、人材といった幅広い視点(社会実装に向けた5つの視点)からの取組が必要となります。このため、SIPでの研究開発テーマに限らず、マッチングファンドも含め関係省庁や産業界の取組を促していくことが重要です。XRLはこのためのコミュニケーションツールとして整備したものですので、関係省庁や産業界との認識共有や連携にあたってご活用下さい。

なお、データ連携と同様、PD会議の下に「社会実装に向けた戦略に係るワーキンググループ」を設置します。各課題から1名、WGへの参加をお願い致します。PDのご参加も歓迎しますが、SPDレベルを想定しております。

(資料)

参考資料16 PD会議と各WGの概要(再掲)

参考資料17 令和4年度社会実装分科会(第4回)資料

参考資料18 SIP第3期の総合知活用について

7. 課題評価

課題評価に係るスケジュールは未定ですが、来年1月に評価委員会が開催される見込みですので、ピアレビューは12月中の終了が必要です。評価方法やスケジュールに係る詳細な情報は、事務局より追ってご連絡差し上げますので、宜しくお願い致します。

本年度の評価の方向性として、アジャイルな運営、5つの視点からの取組、社会実装を実現するための5つの視点を考慮したマネジメント体制や研究実施体制(マネジメントチーム、ピアレビューアー、研究開発責任者等)、府省・産官学連携、課題間連携・データ連携などを重視することを想定しています。

8. その他

・2025年に開催される大阪・関西万博において、SIPも万博期間中の研究開発成果の発信をアクションプランとして登録されております。SIP全体でシンポジウム等の開催を計画することを予定していますので、それに向けて積極的な発信をご検討お願いいたします。

・SIPの取組や成果の理解促進や社会実装に向けて、SIPに関するイベント、プレスリリース、学会発表等につきまして、ユーザーや国民の視点から、広く情報発信いただく為に事務局HPへの情報提供依頼をさせていただきますので、ご協力お願いいたします。

(資料)

参考資料 1 9 万博アクションプラン

以上